

宮本常一・旅の足跡 2

昭和18年〜24年（一九四三〜四九）

36〜49歳

アチツク時代のはじまり

昭和二〇年、大阪府の嘱託となり、生鮮野菜需給対策をたてる。府下の農村をまわり、篤農家たちをくどいて歩く。上からの押しつけでなく、農民を信じ、一人ひとりの心に訴えるのが宮本のやり方。

この時期は農地問題、農業技術に最も強い関心を持っており、全国の篤農家たちと交わり、その技術を吸収し、各地で技術指導や経営指導を行う。自ら伝書鳩と称す。

（参考・同時代の証言）

